

外傷後成長の成立に関わる要因の検討

～児童期の震災体験～

○山田 富美雄

関西福祉科学大学心理科学部

キーワード：外傷後成長、PTG-J、PTSD、ストレス

背景

震災や風水害などの自然災害は、子どもたちに恐怖や喪失などの外傷体験を与え、直後から特有のストレス症状が現れる。これは急性ストレス障害であり、時間経過とともに症状は消失してゆく。ところが半年を超える時間がたった後に、不安やうつ、怒り・混乱などの精神症状を伴う回避行動や社会的不適応などの症状が現れることがある。これは外傷後ストレス障害(PTSD: Posttraumatic Stress Disorder)と呼ばれる。筆者は阪神・淡路大震災(1995年)の直後から、被災地小中学校児童を対象としたストレスマネジメント教育活動を行い、PTSD発症予防に早期のストレスマネジメント教育が有効であることを報告してきた(服部・山田, 1999; 山田, 2016)。また同時に自分を知らうチェックリスト」を用いたストレスマネジメント教育の後、児童の「愛他性」が成長することを認めている。このように、震災後に子どもたちの心の成長が顕著に表れる可能性については、経験則として従来から存在はしていたが、自己概念や対人関係の成長という実態が明らかになされ、外傷後成長(PTG: Posttraumatic Growth)と名づけられるに及んで(Tedeschi & Calhoun, 1996; 宅, 2010)、より詳細な調査が必要になってきた。

筆者は2016年2月に、阪神淡路大震災被災児を対象としたWeb調査を実施し、PTG測定尺度の妥当性を検討した(山田ら, 2017)。今回は、阪神淡路大震災に東日本大震災と熊本地震の被災地を対象に加え、3地区でのPTG尺度の比較、災害時のPTSD症状との関係について検討した2017年3月に実施したWeb調査の結果を報告する。

目的 PTGの成立に、災害経験時の年齢とPTSD症状の程度がどのように関係するかを、Web調査により明らかにすることを目的とする。

方法

対象者 日経リサーチを用い、Webによる調査を実施した。阪神淡路大震災対象地区として大阪と兵庫在住549名(男270名、女279名)、東日本大震災対象地区として青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、千葉在住551名(男271名、女280名)、熊本地震対象地区として熊本、大分、福岡、佐賀、長崎、宮崎、鹿児島在住547名(男273名、女274名)が調査対象となった。なお対象年齢は27～42歳、各年齢で100名(男女同数)を目標として同調査会社のモニターに応募をかけた。

調査期間 調査は2017年3月24日～29日の6日間で目標数に達した。

調査項目 ①PTG 21項目、②PCL-S 17項目、③幸福感尺度4項目、④レジリエンス尺度6項目、⑤自己効力感23項目、

⑥楽観主義-悲観主義 20項目に加え、最も大きな影響を与えたとされる自然災害(阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、その他のうちどれか)、震災時の住居地、被災後の体験などについての質問13項目などであった。

分析 PTGi-Jは17項目からなる1因子尺度とみなして分析を行った(山田ら, 2017)。

倫理的配慮 対象者へは研究目的、匿名性の保障などの倫理的配慮について口頭で説明をおこない調査用紙の提出をもって同意を得たものとした。

結果および考察

図1に被験者が自分に最も影響を与えた災害と回答した自然災害条件の平均PTGi-J得点を男女別に示す。阪神淡路、東日本、熊本の3震災の平均PTGi-J得点は、「それ以外」および「ない」の回答より有意に高く、また3つの震災間に有意差はなく被災時の年齢はPTGの成立に影響しなかった。

PTGi-J得点はPCL-S得点と有意な正の相関を示し(阪神淡路、東日本、熊本の順に $r=.319, .374, .419$)、PTSD症状が強いほどPTGの成立が強かった。

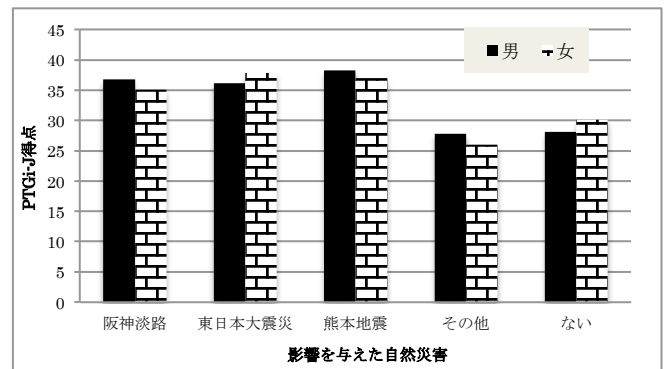


図1 自然災害間の平均PTGi-J得点を男女別に示す

引用文献

- 服部祥子・山田富美雄(共編著) 阪神淡路大震災と子どもの心身 名古屋大学出版会、1999.
- Tedeschi RG, Calhoun LG. The Posttraumatic Growth Inventory: Measuring the positive legacy of trauma. J Trauma Stress 1996,9, 455-71.
- 宅香菜子 外傷後成長に関する研究, 風間書房, 2010.
- 山田富美雄 「自分を知らうチェックリスト」を用いた被災児のストレス評価～被災した子どもたちのストレスとの対処. 日本心理学会(監) 震災後の親子を支える. 誠信書房, 2016, p. 17-31.
- 山田富美雄・島井哲志・大野太郎・山野洋一 成人前期集団の外傷後成長に関する研究(1)外傷後成長の測定. 第23回日本行動医学学会学術総会, 2017年3月17-18日、沖縄(沖縄科学技術大学院大学)

【註】本研究は著者に付与された平成27-29年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究B:#15H03458)による。

【利益相反自己開示】発表に関連し開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

(YAMADA Fumio)